

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

○ ねらい

自然や生き物、伝統文化、産業などの藍島の「人・社会・自然環境」への意図的な出会いを仕組み、主体的な探究活動や表現活動に取り組みさせることを通じて、ふるさと藍島に愛着と誇りをもち、自然や伝統を受け継ぎながら、たくましく生きる力をもった子どもを育成する。さらには、様々なつながりから自分を見つめなおし、自分の生き方を考えていくことのできる子どもを育成する。

○ 活動の実際

「人とのつながり（藍島盆踊り）」

藍島に100年以上伝わる藍島盆踊りは、毎年8月14、15日に、輪の中心に櫓を据え、太鼓2個と樽1個、三味線と音頭取りの口説きに合わせて輪踊りをする。現在、この伝統文化を継承するため、盆踊り保存会（会員35名）が結成されている。子ども達は、この保存会の方々から、太鼓の打ち方や三味線の弾き方、口説きの歌い方、踊り方などを教えてもらった。そして、8月14日の盆踊りや6月のふるさと運動会などで大勢の島民の前で発表することができた。このことから、子ども達は、藍島の伝統文化に触れ、藍島の方々とのつながり、藍島の一員として島の伝統文化を引き継ぐことのできる子どもを育成することができた。



『保存会の方の三味線指導』



『保存会の方の口説き指導』



『保存会の方と一緒に盆踊りの練習』



『櫓の上で、三味線を弾き口説きを歌う子ども達』



『8月14日に島民の方と一緒に盆踊り』



『ふるさと運動会で盆踊りの発表』

「社会とのつながり（風力発電の学習）」

藍島の約10km沖合で、浮体式洋上風力発電システムの実証研究が行われることになった。そのため、藍島には気象データを観測する機器が設置されるこ

ととなった。その研究事業の一環で、子ども達は、研究員の方と一緒に学習することができた。今年度は、風力発電の仕組みや海上での風力発電のメリット等を風車作りや研究員の方による説明を通して学ぶことができた。その中で、子ども達は、自然エネルギーの大切さや地球温暖化の様子等について興味を持ち、理解することができた。また、自然環境を守っていくことの大切さについても感じる事ができた。



『研究員の方から、風力発電等の説明』



『ペットボトルを活用しての風車作り』



『ペットボトルを活用しての風車作り』



『作った風車を回して発電の実験』



『子どもが作った風力発電装置（風力で発電機を回しLEDが点灯する）』

「社会とのつながり（白州灯台見学と清掃）」

藍島の西約1kmに白浜と岩礁からなる白州と呼ばれる小島がある。そこは、およそ200年前、浅瀬に船が乗り上げ、多くの死者が出る事故が続く海の難所だった。そこで、岩松助左衛門という小倉藩の武士が、一生を捧げて灯台造りに尽力した。そして、助左衛門の死後、1873年、白州に灯台が完成した。この白州灯台の学習において、子ども達は、岩松助左衛門の生き方を通して地域の発展に尽くした先人の働きや苦勞を学んだ。また、この白州灯台を見学することで、漁師をしている自分たちの親や祖先たちの安全を守っている白州灯台の重要性をより身近に感じ理解することができた。今年度は、海上保安庁の協力で、灯台の中まで入り見学することができた。子ども達は、灯台の灯りが周りの広い海を照らし、今でも海上の安全を守っていることを実感することができた。



『船上から見た白州灯台』



『海上保安庁の方の白州灯台についての説明』



『白州灯台の内部の見学』



『狭い階段を昇り灯台の最上部に行く子ども』 『白州灯台の周りを清掃』 『白州灯台の周りを清掃』

「自然環境とのつながり（スナメリ調査、環境調査、島内清掃活動）」

藍島の周りの海には、スナメリという小型のクジラが生息している。このスナメリを調査したり、海水の水質を調査したりする活動を通して、藍島の海は、どのような状況にあり、「島を守っていくということとは。」「自然環境を守っていくということとは。」どのようなことか考えることができた。その中から、自分たちにできることは何かを考え、実際に活動することで、自然環境保全に向けての意欲付けを行うことができた。今年度は、福岡市にあるマリンワールドの方にスナメリ調査や藍島の海の水質調査、スナメリの生態について学習を一緒にしていただいた。船上からスナメリの生息状況を観察し、かなりのスナメリがいることがわかった。マリンワールドの方から、「スナメリが生息することができる海は、それだけよい自然環境がある。したがって、藍島の周りの海的环境はよい状態にある。」と、教えていただいた。また、30cm程の白い円盤を海に沈め、水深何メートルまで見えるかの調査を行った。今回は、船が海底まで8.6mのところにあつたため、まだ見える状態のまま白い円盤が海底に到達した。まだ、下のところまで見えそうだっただけに、子ども達はとても残念そうだった。この調査から藍島の周りはとてもきれいな海だということも分かった。これらの活動から、自然が豊かで、きれいな海が広がる藍島を再認識し、「自然環境を守ろう。」「きれいな藍島にしていこう。」と、島内清掃活動へとつなげることができた。また、北九州市の藍島小学校と福岡市のマリンワールドを映像でつなぎ、マリンワールドにいるスナメリの映像を学校で見ながらスナメリの生態について学ぶこともできた。



『船の上からスナメリ調査』



『マリンワールドの方とボードを使って海の透明度調査』



『ボードが海の底のどこまで見えるか観察調査』



『プランクトンネットで藍島の海の水質調査』



『骨格標本を見ながらスナメリについての学習』



『福岡市のマリンワールドと中継してスナメリの生態についての学習』



『島内の清掃活動を行う子ども達』



『集めたごみを運ぶ子ども達』



『子ども達と一緒に活動した年長者の方と集めたごみ』

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()